

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が577例(男性281例(10歳代32例, 20歳代43例, 30歳代32例, 40歳代35例, 50歳代33例, 60歳代25例, 70歳代41例, 80歳代34例, 90歳代2例, 年齢非公開4例), 女性284例(10歳代24例, 20歳代50例, 30歳代21例, 40歳代31例, 50歳代37例, 60歳代23例, 70歳代33例, 80歳代37例, 90歳代21例, 年齢非公開7例), 年齢及び性別非公開12例)あり, 本年の累積報告数は2,588例になりました。
- ・ **インフルエンザ**は市内69の定点医療機関から2例の報告があり, 定点当たり報告数は0.03(全国:0.01)でした。昨年同時期の定点当たり報告数は15.25(全国:18.00)であり, 例年と比べると極めて少なく, 全国的にも流行の予兆は見受けられませんが, 感染予防に努めましょう。新型コロナウイルス感染症と同様, 手洗いやマスクの着用などが重要です。
京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
- ・ **感染性胃腸炎**の定点当たり報告数は2.93(126例)となり, 前年より4週連続で増加しました。例年, 冬には感染性胃腸炎が流行しています。帰宅時, 食事前などには手を洗い, 感染を予防しましょう。

◆ 今週のトピックス: <梅毒>

京都市の2020年における梅毒の年間報告数は60例となりました。月別の推移をみると, 9月頃までは前年2019年とよく似た推移を辿っていましたが, 10月及び11月には報告数が少なく, 12月には再び増加しました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ **二類:結核** 1例(肺結核 なし, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 10例(肺結核 5例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 1例】
- ・ **指定感染症:新型コロナウイルス感染症 577例**【1月以降の累積報告数 2,588例】
男, 281例(10歳代32例, 20歳代43例, 30歳代32例, 40歳代35例, 50歳代33例, 60歳代25例, 70歳代41例, 80歳代34例, 90歳代2例, 年齢非公開4例)
女, 284例(10歳代24例, 20歳代50例, 30歳代21例, 40歳代31例, 50歳代37例, 60歳代23例, 70歳代33例, 80歳代37例, 90歳代21例, 年齢非公開7例)
年齢及び性別非公開, 12例

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.03	2
小児科	① 感染性胃腸炎	2.93	126
(降順5位まで)	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.65	28
	③ 突発性発しん	0.30	13
	④ 水痘	0.12	5
	⑤ 咽頭結膜熱	0.09	4
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

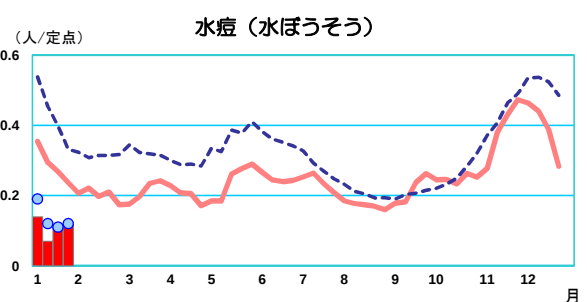
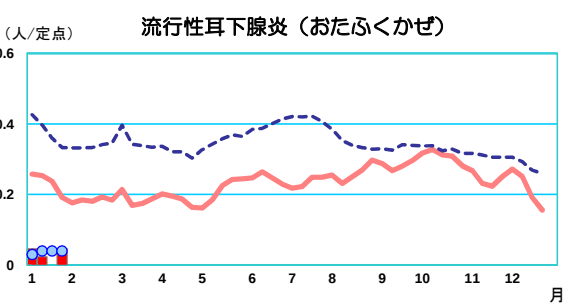
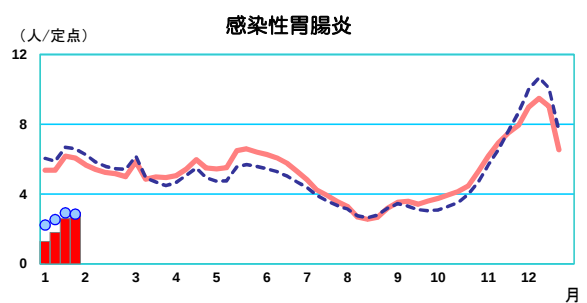
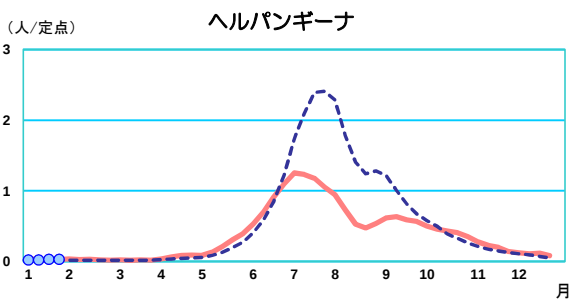
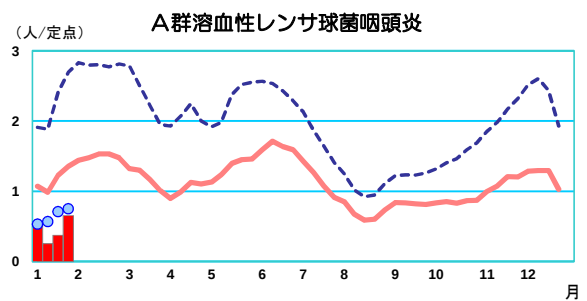
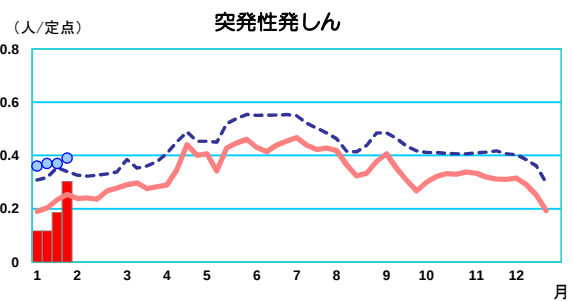
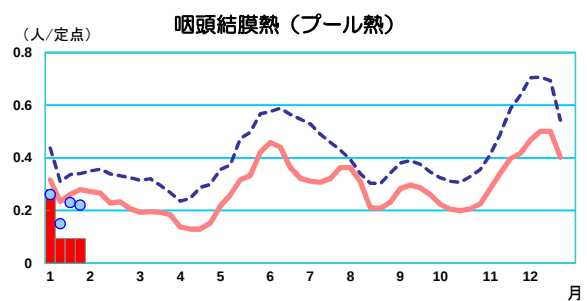
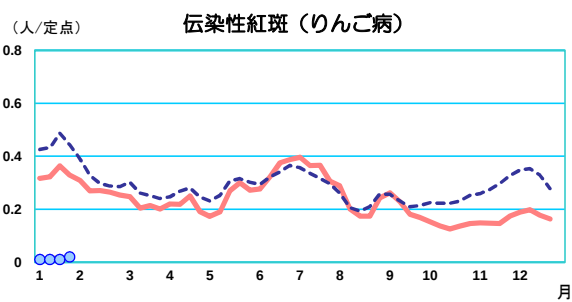
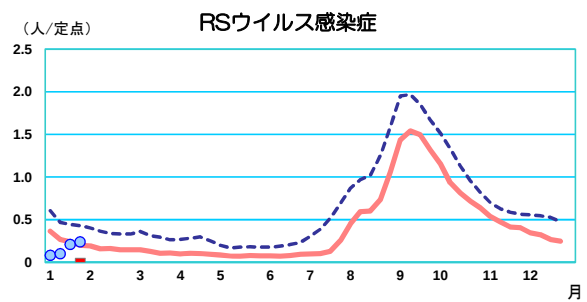
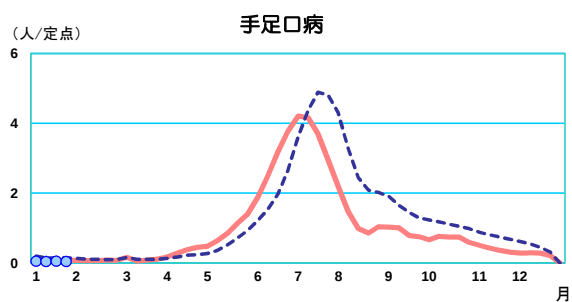
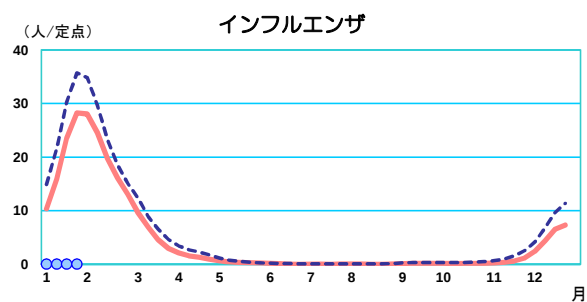
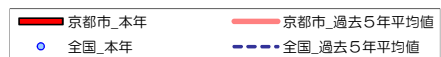
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <梅毒>

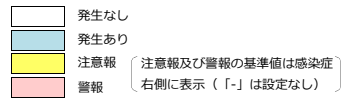
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年2月4日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

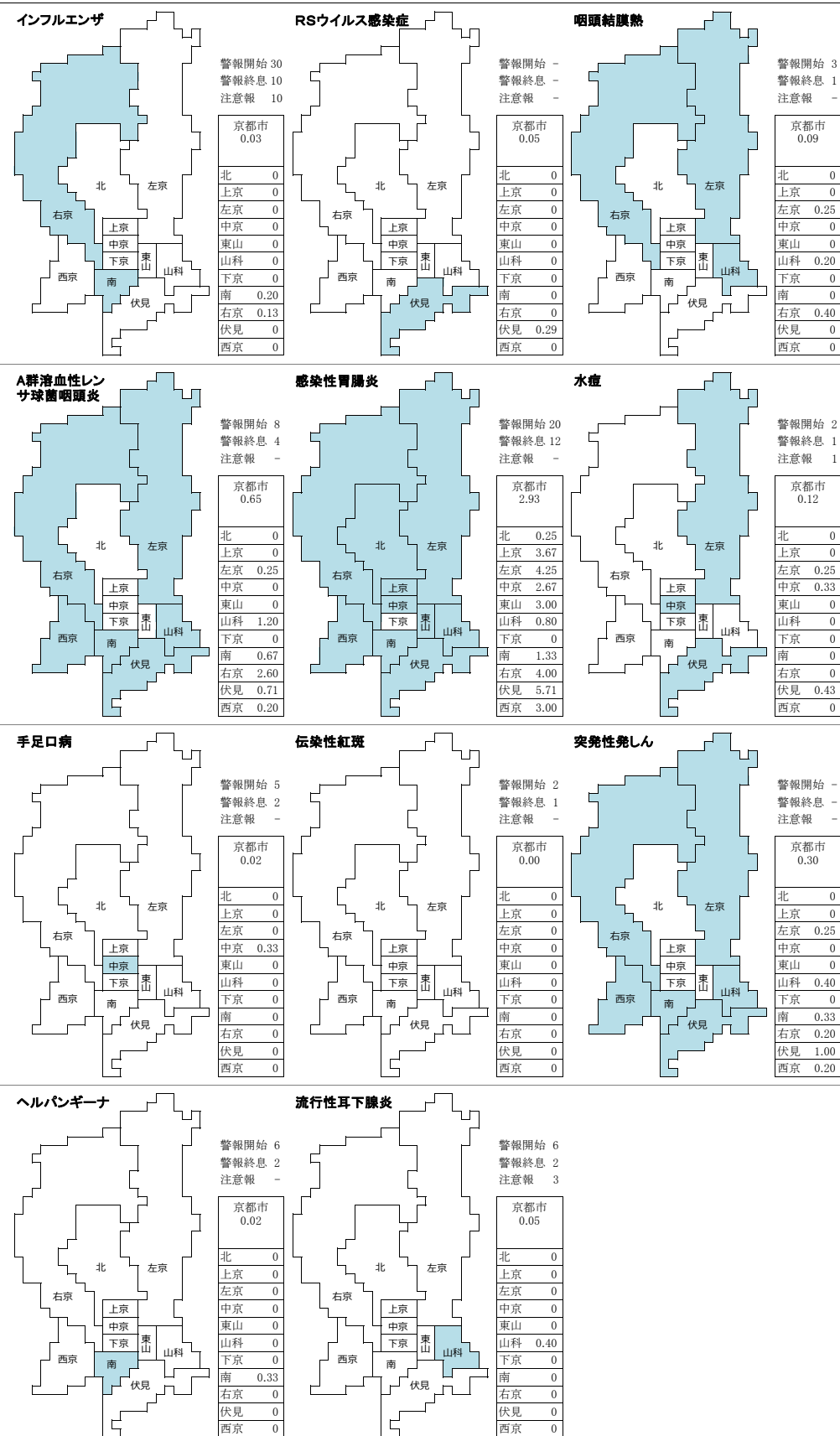
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年 第4週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第4週(1月25日～1月31日)トピックス:＜梅毒＞

京都市の2020年における梅毒の年間報告数[※]は60例となりました。月別の推移をみると、9月頃までは前年2019年とよく似た推移を辿っていましたが、10月及び11月には報告数が少なく、12月には再び増加しました(図1)。全国では第53週までで5,784例の報告がありました(図2)。

過去10年間の推移をみると、京都市では2014年に10例を上回って以降、急速に報告数が増えています。2017年は71例、2018年及び2019年は同数で66例と若干減少、2020年は更に減少して60例となりました。全国では2013年に1,200例を超えてから増加傾向となり、京都市同様、急速に増加して2018年は7,000例を超えました。2019年はやや減少して約6,600例、2020年は6,000例を下回りました。過去10年間の年次推移を考慮すると、2020年は京都市及び全国で減少したものの、依然として高い値で推移しており、減少傾向と捉えることができるかは今後の動向を観察した上での慎重な判断が必要と考えられます(図2)。

全国の発生動向を性別及び年齢階級別で10年間遡って比較すると、2011年から2020年にかけて、総数は7～8倍となっています。男女比をみると、おおよそ男性80%に対し女性が20%であったものが、2014年から女性の割合が年々増えて、2017年は男性67%、女性33%となりました。性別と年齢階級を合わせてみると、男性では30歳代と50歳代の割合が減少し、20歳以上の各年齢層の割合がほぼ同じになりました。一方、女性では、20歳代の割合が6%から18%と特に際立って増加しています。男女比及び年齢構成は2017年以降は毎年ほとんど同じ構成となっており、総数の高止まりと同様、発生動向が定常状態になりつつある可能性があります(図3)。

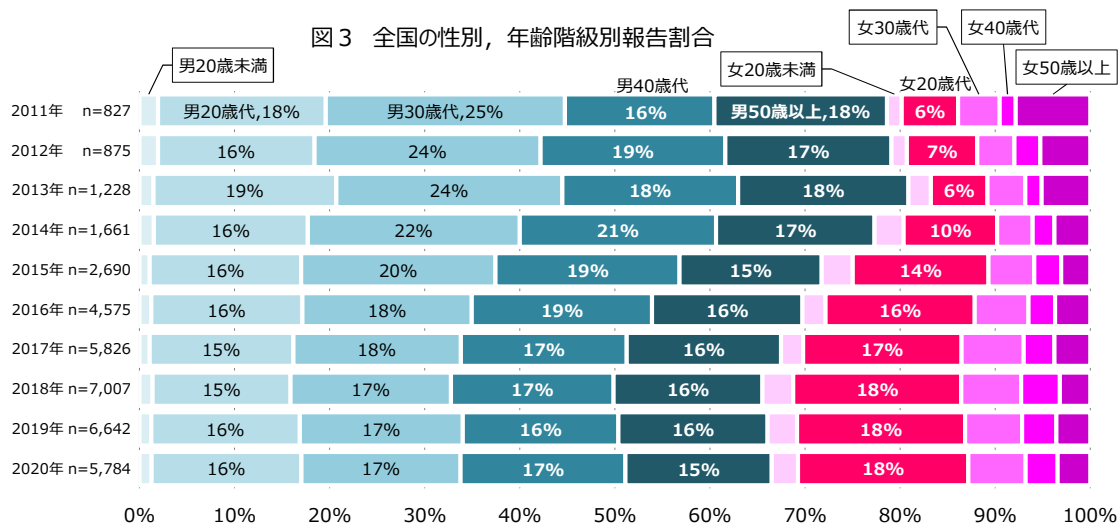
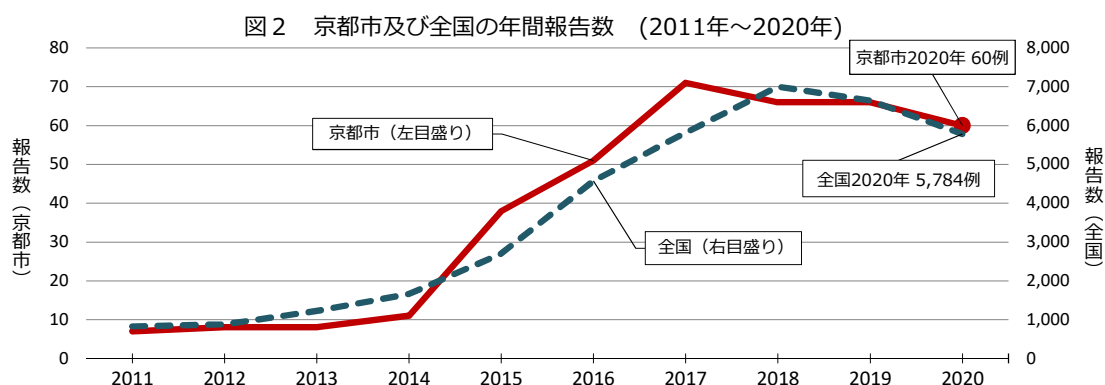
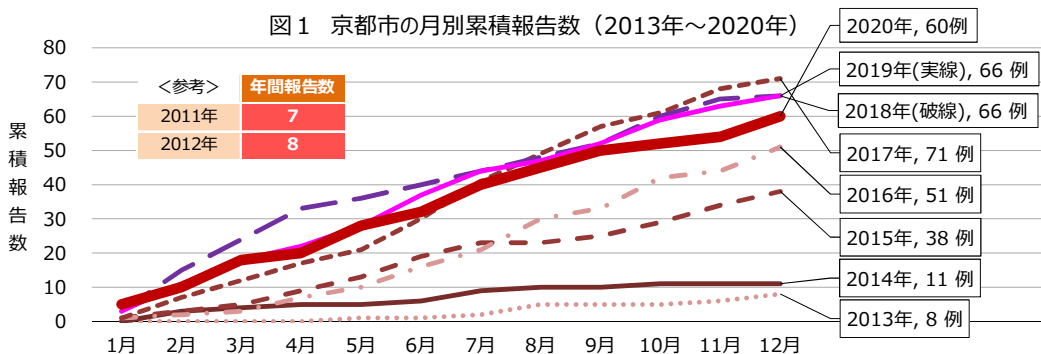
梅毒が急増した背景には、様々な要因があると言われていますが、不特定多数との性行為の増加も一因と見られています。報告数は医療機関を受診した患者に限られますので、自覚症状が少ない等で治療を受けておらず、他の人の感染源となる可能性のある人を含めると感染者数は更に多いと推測されます。梅毒は一度罹っても終生免疫は得られず、何度でも感染します。感染機会があり皮膚や粘膜に異常を感じた場合には、新型コロナウイルス感染症流行時であっても、早めに泌尿器科・婦人科・皮膚科等の医療機関を受診しましょう。

このほか、梅毒に関する正しい知識を身につけることが重要です。京都市衛生環境研究所では、機関誌「京都市衛生環境研究所にゆーす」で、梅毒を含む性感染症について病気の症状や予防方法等を分かりやすく御紹介しています。ぜひ御覧ください。

【京都市情報館】京都市衛生環境研究所にゆーす(平成29年度第1号)「性感染症」って何?

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>

[※] 京都市・全国ともに2020年第53週までの暫定値を年間報告数として記載しています。第53週には2021年1月1日～同年1月3日までの報告が含まれること、今後の修正の可能性があることから、確定される値と異なる場合があります。



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第4週

疾病,行政区別報告数

2021年1月25日～2021年1月31日

データ入手日:2021年2月4日

	インフル エンザ（※ 1）	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	頭 炎 A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急性 出血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性 髄 膜 炎（※ 2）	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎（※ 3）	感 染 性 胃 腸 炎（※ 4）
男女合計																		
北	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	1	1	17	1	-	-	1	-	-	-	-					
中京	-	-	-	-	8	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	1	6	4	-	-	-	2	-	2	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	1	-	-	2	4	-	-	-	1	1	-							
右京	1	-	2	13	20	-	-	-	1	-	-	-	-					
伏見	-	2	-	5	40	3	-	-	7	-	-	-	-					
西京	-	-	-	1	15	-	-	-	1	-	-	-	-					
京都市計	2	2	4	28	126	5	1	-	13	1	2	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフル エンザ（※ 1）	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	頭 炎 A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急性 出血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性 髄 膜 炎（※ 2）	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎（※ 3）	感 染 性 胃 腸 炎（※ 4）
男女合計																		
北	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	3.67	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	0.25	0.25	4.25	0.25	-	-	0.25	-	-	-	-					
中京	-	-	-	-	2.67	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	3.00	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	0.20	1.20	0.80	-	-	-	0.40	-	0.40	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	0.20	-	-	0.67	1.33	-	-	-	0.33	0.33	-							
右京	0.13	-	0.40	2.60	4.00	-	-	-	0.20	-	-	-	-					
伏見	-	0.29	-	0.71	5.71	0.43	-	-	1.00	-	-	-	-					
西京	-	-	-	0.20	3.00	-	-	-	0.20	-	-	-	-					
京都市計	0.03	0.05	0.09	0.65	2.93	0.12	0.02	-	0.30	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。
※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。
※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第4週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年1月25日～2021年1月31日

データ入手日:2021年2月4日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	2	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
RSウイルス感染症	年齢3	2	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		4	－	1	1	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		28	－	1	3	1	2	5	3	1	2	3	1	3	－	3						
感染性胃腸炎		126	1	7	16	20	14	19	7	5	3	1	4	12	5	12						
水 痘		5	－	－	1	1	－	－	－	－	1	1	－	1	－	－						
手 足 口 病		1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		13	－	8	4	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		2	－	－	－	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	0.03	－	－	0.01	－	0.01	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症	年齢3	0.05	－	－	0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		0.09	－	0.02	0.02	0.02	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.65	－	0.02	0.07	0.02	0.05	0.12	0.07	0.02	0.05	0.07	0.02	0.07	－	0.07						
感染性胃腸炎		2.93	0.02	0.16	0.37	0.47	0.33	0.44	0.16	0.12	0.07	0.02	0.09	0.28	0.12	0.28						
水 痘		0.12	－	－	0.02	0.02	－	－	－	－	0.02	0.02	－	0.02	－	－						
手 足 口 病		0.02	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		0.30	－	0.19	0.09	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.02	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.05	－	－	－	－	0.02	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第4週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年2月4日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	1	1	－	－	2
RSウイルス感染症		－	1	－	－	－	2
咽 頭 結 膜 熱		8	1	12	4	4	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		20	14	23	11	16	28
感染性胃腸炎		79	30	55	77	111	126
水 痘		7	2	6	3	5	5
手 足 口 病		1	－	－	1	2	1
伝 染 性 紅 斑		1	－	－	－	1	－
突発性発しん		10	6	5	5	8	13
ヘルパンギーナ		4	1	1	2	2	1
流行性耳下腺炎		1	－	2	1	－	2
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		2	－	2	1	3	－
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		133	56	107	105	152	184

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	0.01	0.01	－	－	0.03
RSウイルス感染症		－	0.02	－	－	－	0.05
咽 頭 結 膜 熱		0.19	0.02	0.28	0.09	0.09	0.09
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.47	0.33	0.53	0.26	0.37	0.65
感染性胃腸炎		1.84	0.70	1.28	1.79	2.58	2.93
水 痘		0.16	0.05	0.14	0.07	0.12	0.12
手 足 口 病		0.02	－	－	0.02	0.05	0.02
伝 染 性 紅 斑		0.02	－	－	－	0.02	－
突発性発しん		0.23	0.14	0.12	0.12	0.19	0.30
ヘルパンギーナ		0.09	0.02	0.02	0.05	0.05	0.02
流行性耳下腺炎		0.02	－	0.05	0.02	－	0.05
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		0.20	－	0.20	0.10	0.30	－
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		3.25	1.29	2.63	2.52	3.77	4.26

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。